

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 短時間で効果的な活動の推進に向けた実証事業 成果報告書（概要）

沖縄県渡嘉敷村

●地域における現状・課題

- 離島である本村は、児童生徒数が少なく部活がバドミントンの1種目のみとなり、生徒が部活動を選ぶことができない。そのため運動・バドミントンが苦手な生徒は部活動できない現状となる。
- 現在、バドミントン部の顧問はバドミントン部の経験がない教員が担当している。そのためバドミントン部の生徒は専門的な指導を受ける事ができていない。
- 教員が土日の部活動を対応しており、業務軽減が図れていない。
- ・島内に先生に代わる指導者の確保は難しく、ICTを活用し遠隔で指導者を提供できる環境とノウハウが必要。
- ・専門的な指導が受けられていないバドミントン部の生徒へ対し、専門的な指導が受けられる体制構築が必要。 ・教員が部活動に関わらない体制の構築が必要。

●取組事項の概要

- ・学校から完全に切り離れたオンラインで行う部活動（地域スポーツクラブ）の運営を企業へ業務委託を行い、オンラインバスケットボール部とバドミントン部を実践。
- ・委託業者（近畿日本ツーリスト）が地域スポーツクラブ運営団体として、教育委員会と生徒・保護者の間に入り日程調整とを行い、部活動提供企業と連携し、指導者提供・指導プログラムの構築を担った。
- ・生徒はオンライン会議システムで、バスケットボールやバドミントンの専門的知識を持つ指導者の指導を受けた。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・オンライン部活動での学びを促進する上で、NTT東日本が開発した遠隔システム「リモートインストラクション（画面上での赤字指示が可能）」を活用した。
- ・監修者として遠隔部活動の実践経験と学術的な専門的知見を有する研究者（東京家政学院大学 松山直輝 助教）を招聘し、専門的な助言を受けた。

●運営体制図

